

No.	事項	設計指針（平成9年9月以前発刊）	設計指針（平成9年9月以降発刊）
1	必要空気量の算定式が異なる。	<p>ばっ気槽ブロワの設計空気量に係る算定式</p> $OR = (SOR / Ea \cdot Pa \cdot Ow) \times 100 \times (293 / 297) \times (1 / 60)$ <p>ここで、OR：ばっ気槽ブロワの設計空気量（m³/分）</p> <p>SOR：ばっ気槽の散気装置における酸素供給能力（kg-O₂/時）</p> <p>Ea：酸素利用率（%）</p> <p>Pa：空気密度（1.2923kg-air/N m³）</p> <p>Ow：空气中酸素含有重量（0.2315kg-O₂/kg-air）</p>	<p>別紙①参照</p>
2	ブロワにおいてインバータ制御の場合の記述がない。	<p>ばっ気槽ブロワは、原則として設計空気量の 1/2 の能力のものを常用ブロワとして 2 台設けるとともに、予備ブロワとして設計空気量の 1/4 の能力のものを 2 台設置する。</p>	<p>ばっ気槽ブロワは、供用開始時の供用率等を勘案し、原則として設計空気量 1/2 の能力のものを常用ブロワとして 2 台設けるとともに、予備ブロワとして設計空気量の 1/4 の能力のものを 2 台設置する。ただし、ばっ気槽ブロワの駆動装置に回転数制御（インバータ制御）機能を有する電動機を活用する場合には、ブロワの設置台数を設計空気量の 1/2 の能力のものを 3 台（内 1 台予備）とすることができる。</p>

No.	事項	平成 9 年 10 月以前発刊	平成 9 年 10 月以降発刊
3	消毒剤の計算式がない。	記載無し。	<p>固形消毒剤における設計使用量の算定式</p> $V = (q \times n \times a \times 10^{-3}) / \alpha$ <p>ここで、</p> <p>V : 固形塩素剤の設計使用量 (kg/日)</p> <p>q : 一人当たりの日平均汚水量 (m³/人・日)</p> <p>n : 処理対象人口 (人)</p> <p>a : 塩素注入量 (5mg/L を標準とする)</p> <p>α : 有効塩素含有率 (次亜塩素酸カルシウムは 70%、トリクロロイソシアヌール酸は 90% を標準とする)</p> <p>なお、消毒剤として次亜塩素酸カルシウムを用いる場合 (処理対象人口 800 人の場合) における固形塩素剤の設計使用量を算定式として次に示す。</p> <p>固形使用量</p> $V = 0.27 \text{m}^3/\text{日} \cdot \text{人} \times 800 \text{人} \times 5 \text{mg/L} \times 10^{-3} \div 70\%$ $= 1.55 \text{kg/日}$